

8月の夕景 今日の日課を終へた太陽の跡を示

が如く、西空には薄赤い雲の切れ目が見へる。先程の夕立に、よみがへつた様な、草木の吸氣の内に、早や氣の早い蟋蟀が、コロコロと小さな演奏を始めた。雲が拭ひ去

1938年

8月の天象

られた中天には、宇宙の美を語るが如く、エガと白鳥の姿が、すがすがしく浮び出て居る。南の方には、アンタレスが赤い光を、我劣らちとキラメカせて居るのを見落しては失禮だ。そう、其のクルツト巻いたサソリの尻尾には射手が控へて居たつて、西には牧夫のアークトウラスも未だ高い。乙女の心臓か？ 織手に持った穂先？ 恥かしげにスピカがキラキラして居る。かくてやがては、銀白の天の河が、鷺、狐、蛇遣ひ等、數多の星座を縫つて、北から南へと天懸けるだらう。

冥王星 “かに”座に居るが太陽に近く、大望遠鏡でも駄目。

海王星 是れも全く太陽に近づいて來た。“しし”座に居る。

天王星 “ひつじ”座の東南部に居り、8月24日には停留となる。従つて前月よりは少し見易くなつて來たが、未だ良い位置では無い。

土 星 “う”座に居る。ぐんぐん位置は良くなつて來た。月始めには23時、月末には21時に上る様になる。輪の傾きも10度を少し越して來た。今年中では一番傾きが大きい。5cmに50倍も使へば、其の珍奇な全貌を見る事が出来る。10cmに100倍あれば申し分無い。土星の衛星中“チタン”は9等星であるから5cmで見られる。先づ土星の側に小さい星が見へたならば“チタン”だと思つて間違ひはない。10cmになれば“レア”と“ヤベタス”が見られる。“レア”の方は“チタン”よりも更に土星に近いから、倍率を高くする必要がある。ヤツペタの方は東西の離隔で光度が著しく違ふのと、土星から相當離れるのとで、位置を知つて居らないと見難い。都合が良ければ8cmでも見られる。次表に大體の位置を示す。

日 付	土星を中心にして		
7 15	西 190°	北 70°	
23	西 450°	南 30°	

31	西 530''	南 120''	是れに依れば7~8月かけて、9月上旬が 夫々西と東に最も離れる事になる。土星の輪 の視直径は42''前後であるから、最も離れた 時には其の14倍に達する。猶ほ土星光度は+ 0.7であつて、鶯のαよりは少し明るい目であ る。光りは黄色っぽい。
8	西 400''	南 160''	
16	西 110''	南 140''	
24	東 240''	南 60''	
9	東 500''	北 50''	
9	東 560''	北 140''	
17	東 400''	北 170''	
25	東 80''	北 140''	

木 星 8月21日對衝となる。光度は-2.5等、視直径は46''に近い。堂々東天を壓する其の光は5cmの器械で見ても表面上に2本の帯を容易に見る事が出来る。10cmもあればスケッチをする事が出来る。同時に4個の衛星の去就は、何時見ても楽しいスナツプである。

火 星 やつと先月太陽に越された所である。未だとても見られない。然し、既に來年度の接近への第一歩を踏み出したのだ。大いに聲援してやろう。“早く來い來い、我等の友よ”。

金 星 最大離隔を目前にして、益々光芒を宵空に放つ。視直径は17''~22''迄増加し、光輝も-3.6~-3.9等迄となつて、愈々白晝に映じ得る迄になつて來た。形狀も10日月から8日月位にまで少し細るが、薄明中に5cm 50倍も使用すると、眞白な小さな半月に見える。是非見逃さない様に。

水 星 8月1日、夕方に最も太陽から離れたが、28日には内合になる。だから上旬を見逃さない様に御願ひする。少し南に遠慮して居るが、上旬なれば大丈夫。8cm 70倍で金星の弟分に出會つて居るのも滅多とない機會である。

流 星 8月10日頃から著名なベルセウス群が飛ぶ。是れは例年盛衰の勘くない方ですから、夜半から起きて見れば必ず失望には終らない。

射手座 V 505 8月に都合よく見られる極小は4^h22^m5, 17^h22^m5, 23^h20^m5, 30^h23^mの4回である。

月 上弦は3^h11^m, 満月は11^h15^m, 下弦は19^h5^m, 新月は25^h20^mである。微光の變光星觀測には5日頃から14日迄が邪魔になる。そろそろ秋に近づいたので、満月前後には月出時刻の差が日々40分間位である。反對に新月直後には三ヶ月が見難い。28日月齢3.0はうつかりすると見逃す。——(木邊)——